

核データ国際会議準備委員会第1回会合議事録

日 時 昭和60年6月26日（水）13:30～17:30

場 所 原研本部第4会議室

出席者 秋山，木村，川合，水本，五十嵐

（欠席）松浦，管原，白方，菊池

議 事

1. 経過報告（五十嵐）

準備小委員会からシグマ委員会委員長への答申を受けて，1988年核データ国際会議準備委員会が発足し，上記9名が委員に選出された。

シグマ委員会及び準備小委員会の議論を踏えて，原研企画室，国協室，財務部等の関係部署と科学技術庁原子力局の関係課室へ説明を行ったこと，また，原研企画室から科技庁へ説明文書を提出したことなどの報告があった。

NEANDC及びINDCの議長にも非公式に経過説明を行ったことが報告された。

2. Santa Fe会議の報告（水本）

5月13日～17日に米国Santa Feで開催されたNuclear Data for Basic and Applied Science会議の様相について報告があった。

1988年に日本で開く場合に参考とすべき事柄として以下の点が挙げられた。

(i) 秘書陣が非常にしっかりしていた。1982年のAntwerp会議の時はSanta Feの場合よりもしっかりしていた。

(ii) 秘書陣とは別に手助けをしてくれる人達（職員夫人が当たっていた）が良く働いていた。

(iii) 準備は2年以上前から始めていた。

(iv) 郵便物の宛先，出席者名簿などはすべて計算機処理ができるようになっていた。名簿等を世話人のYoung氏から送ってもらった。

郵便物の発送対象者は約1,400名であった。

(v) 論文の型を決め，写真印刷ができるようにしてあった。

- (vi) ポスターセッションは3部に分かれていたが、場所が狭く、討論が十分にできなかった。
- (vii) 口頭発表のparallel sessionは2つが限度である。
- (viii) 開発途上国からの出席者が増えている。食事などへの配慮が必要である。
- (ix) 参加費は160～180ドル（Antwerpでは90ドル）であった。振込み銀行が決っていなかった。

3. 準備の日程について

Santa Fe会議の準備日程を参考にして、開催までの大凡の日程を検討した。日程、プログラム等は組織委員会とプログラム委員会で検討し作成するが、その目安を準備委員会で用意することにした。また、International Advisory Committee（IAC）を組織する必要があるが、本年10月のNEAN DCでメンバーの推薦とTopicsについて非公式に意見を聞くことにした。このための粗案を作って科技庁に打診してみる。

Local Organizing CommitteeとProgram Committeeを今年12月頃に発足させるよう提案する。International Advisory Committeeは来年4月の発足を目差す。

Posterを用意し、配布するが時期は1st circularの配布と同時期にする。

4. Titleについて

会議の名称（Title）について検討したが、良い案が出なかった。運営委員会にも考えてもらうことにした。

次回（8月22日（木））に

Title, Topics, IACメンバー案などの粗案を作る。